2Ma-6

棚田管理事業における地域間交流に関する研究（その２）

○前田真子*　井倉雅子*　西村一朗**
(*奈良女大・院、**奈良女大)

【目的】事業は 3 年目に入り、規模も大幅に拡大され、地区住民・都市住民ともに参加体制や意識が変化しつつある。その２ではその１に引き続き、平成 8 年度の調査結果から検討した「棚田オーナー制度」の課題に対する 3 年目の現状を調査し、「オーナー制度」の今後の展望について検討する。

【方法】「棚田オーナー制度」に参加する 18 歳以上のオーナー146 人、20 歳以上の稲渕地区住民 142 人に対してアンケート調査を行い、その結果について分析を行った。

【結果】2 つのコースを選択できるようになったことが、オーナーの意欲向上へとつながっているが、コースを改善し、今後もさらに農作業を習得していこうとする人、農業経営や移住を考えている人のための受け皿を設ける必要がある。イベントに必要な交通機関や施設空間の整備も必要であり、地区住民の日常生活を阻害しないよう、公共交通機関や広場などの施設の整備が必要である。今後の地区空間整備の課題としては、まずはオーナーの有志で協力し合うなどして水洗トイレ、手洗い場を設置し、駐車場や広場・集まり空間などの大きな施設は、休耕田や空き地を利用するなど周囲の景観を壊さず、現在の景観を維持しながら、日常生活を円滑にする方法を検討する必要がある。現時点での課題を克服せずにこの事業を長く続けていくことは困難であると思われるため、何を目的としてこの事業を行っているのかを参加者が振り返り、今後の方向を明らかにしていく時期に差し掛かっているといえる。